（大正十二年十一月八日第三種郵便物認可）　昭和十四年十一月十六日　常磐毎日新聞　〔木曜日〕　第四千六百四十八號　【一】

常磐毎日新聞

日刊

十一月十五日夕刊

定價 一部金貳錢 一ヶ月金五拾錢 [illegible]
廣告料普通一行五拾錢 特別指定一行七拾錢
[illegible]日印刷 [illegible]發行
發行兼編輯人印刷人 [illegible]
發行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社 [illegible]

天氣豫報

今晩は北西の風晴一時曇
明日も北西の風晴一時曇

鵜城部隊の勇士 農繁手傳に歸る
平驛頭に時ならぬ軍靴の高なり
描かれた〝土と兵隊〟

外出用の眞新しい軍裝も凛々しい兵隊さんが今朝平驛へ三々五々と下車交す擧手の禮もいそ〳〵と各家庭へ歸つたがこれは新米出廻りに拍車をかけるため特に歸農休暇を得たわれらが〇〇部隊の勇士の面々でこの人々は丸腰となつて家に歸る早々籾摺部隊として大いに立働く譯

×

今度の歸農部隊は十五日から一週間の休暇であり第二回は二十二日から一週間であるが一週間の士の戰士を迎へる農家としては手不足に悩みきつてゐる際とて實に感激の極みであると言ふもの

×

郡下各地の稲作は増産の潮に乗つてこゝ十數年にない大豊作どこの農家でも鎌入れが濟み架干も終つてサテこれから籾として土間に積むと言ふ際手が廻りかねて玄米に姿を變へる事が出來ずにゐる秋應援部隊がドッと繰出された事はまさに銃後の農村に描く軍民一致の大きな繪卷であらねばならぬ

英靈・無言の凱旋

中支戰線で不滅の武勲を樹て遂に散華した英靈は十二月二十七日上海出港で懐しの國へ無言の凱旋をするが平市並に郡下の英靈は左記の如くである

△立花部隊平市紺屋町輜重一等兵久野春資君 △[illegible]夫村伍長綠川寛世君

小野伍長の榮譽

支那事變陸軍關係第十六回論功行賞は十五日賞勲局から發表されたが今回恩賞に浴した英靈は武漢攻略戰における揚子江流域並に大別山系の戰鬪地區及び海南島、廣東攻略戰に偉勲を樹てゝ散つた戰死、戰傷死者並に戰病死を含むもので地方關係者は左記唯一人である

△功七旭八歩伍植田町 小野富辰

食料と學用品 縣社會課で給與
川部の罹災民へ

昨報、川部村大字小川の火災に對し縣社會課ではこれが救濟方策として差當り十日分の食料と學用品を給與されることとなつたが、罹災者中には鑛山關係者も多くそれ等に對しては鑛山當局からも救濟がある筈である、なほ同火災の罹災者は次の如くである

飲食店深谷藤吉（四五）、石屋根本才太郎、蹄鐵佐藤留雄（四三）、醫師小松金吾（七〇）、坑夫吉成吉夫（三九）、同赤津龜吉（五四）、同菊地太郎藏（五八）、同井南清作（六四）、同井南清美（六〇）、同消水由吉（三九）、採炭夫石山キク（六四）、劇場主中山吉之助

長屋を再建
罹災坑夫を收容

（昨報）川部村小川の火災に關し同村では急施村會を開き應急處置を講じることになつたが一方日の出炭礦でも罹災坑夫の救護につとめ早くも坑夫長屋の再建に着手罹災者六十餘名を取敢へず各戸へ分宿させたので人心も全く安定それに縣社會課からも衣類や食料品、見舞金等が交附されることになつたので悲慘な燒跡も力強い復興氣分が漲つてゐる

模範防空群
表彰の金一封を國防へ獻金

大野村玉山部落の第一、第二家庭防空群ではさきの防空演習に當り模範家庭防空群として村當局から表彰され金一封を贈られたがこの時局に無駄にしてはとこの金に各自十錢宛醵出して金五圓としこの程第一群長大谷正道、第二群長新妻壽男の兩氏が代表となり國防獻金にと四倉署へ寄託した

農業開拓民詮衡
廿八日平職紹で

滿洲國龍江省訥江縣の本縣第八次農業開拓民福島村は先遣隊五十戸既に入植し家族も移住を完了、着々整備成つて後續部隊を待つてゐるが縣では明年六月までに本隊二百五十戸を入植させるため二十八、九の兩日平職業紹介所をはじめ福島、若松、郡山各職業紹介所で銓衡を行ふことになつた

同分村は面積一萬數千町歩で三十萬圓の基金をもつて三百戸建設に着手したもので、一戸二十町歩の耕地が約束されてゐる

チブス禍の對策　錦村では來る二十三日午後一時から各部落の總代、組長、區長會を開き吳羽紡績のチブス患者續出に伴つて惱んだ同村隔離病舍の費用分擔其他諸事項を附議する

年末賣出しは徹底的〝自肅自戒〟
『大賣出し』の文字も法度
平署の取締を打診

霜月も中ばを過ぎて愈よ師走も近づいて來た市內各商店は例年なら歳暮大賣出しの準備に忙殺されるのだが非常時局とあつて昨年同様自肅する筈、昨年は大賣出しの看板はなくとも各商店が賣出し氣分を發散して購買慾を大いにそゝつたものだが今年はそれも嚴重取締るとあるから賣る者も買ふ者も文字通り自肅自戒することになる、平署の取締は縣當局の指示に基いて大体左の方針に出る模様である

一、歳暮賣出しの文字の使用は勿論のこと街の宣傳廣告は一切許されない
一、贈答品と認められるものゝ配達は一切許されない
一、賣出しといふ文字は行はれなくとも從來行はれてゐる事實上の賣出しに統制を加へ約一週間その時間を短縮する
一、購買者側にも働きかけ各銀行會社に「贈答を中止致しませう」と勸告する

お役人様が「耐寒執務敢行」

本格的寒波の襲來で各地方はすつかり冬支度に入つた例年なら市役所をはじめ才判所其他各官廳も十五日からストーヴを焚くのだが燃料節約と第一線勇士を偲ぶ建前から耐寒執務を敢行十二月十日頃から暖をとるといふ意氣込みだ、しかし一般家庭は俄に襲つた寒波に狼狽し木炭の買込みに大童だが各地とも依然お炭飢饉は深刻で「公定價格を引上げたからお炭は豊富だ」と思つたのは大きな誤算となつた平市内の木炭商の店先には一俵の木炭すら見當らないのに最近では副業的にやつてゐた商店が仕入難から一時販賣を中止する仕末で木炭飢饉は深刻の度を加へるばかりである、經濟係では成行を重視し買溜、闇取引を警戒すると共に原因調査中だが『山には木炭が比較的豊富だ』との情報が入つたので經濟警察官を生産地へ出張させ木炭出廻りを促進させることになつた

小名濱支局通信

小名濱商港問題に就て

支局長 小野務平

小名濱港第二期工事施行速成運動は地許町民と言ひ且縣當局と云へ血みどろの猛運動も遺憾ながら其奏効を見ず遂大藏省の査定から削除された事を東京新聞は報導して居る恐らくは間違ひないと信ずるが吾々小名濱町民の爲めには本當でない事を祈つて居る一人であるが、結局は望の綱も實は心細い樣な感じをするのである

此れを國家の立場から見る時に本邦開闢以來の一大聖戰を控へた今日に於て小名濱港の問題は全く取り上げられないのが普通であつて何の理屈もあつたものでない事は言ふまでもないが其の此處に至る以前に於て斯くならない爲めの方法を講ずる必要があつたではないかと思ふ、然し此れも今では過去の夜だ。只此處で此儘泣寝入りをして仕舞ふかどうかに就て考へて見たい

本港の工事繼續運動は先づ其以前に根本から間違つて居る事に氣がつくだらうそれは港灣修築の上に必要條件として敷ふべき後部輸送機關の問題を等閑に附したと云ふ一事である、本港の爲めに尤も其生命線として重きを置く平小線は今どうなつて居るかに眼を放たば恐らくは思ひ半ばに過ぎるであらう

港灣と鐵道は何この港灣地帶でも必らず臨港線が出來て居る小名濱港のみは僅に海岸軌道線が小名濱町に這入つて居るのみで唯一無二と力にした平小線は遂に幽靈の如く今猶五厘夢中に彷徨して居るのではないか、これでは商港が如何に必要を説いても誰も耳を借すものゝないのは當然で、玆に商港の運命は約束されて居るのである

殊に平小線に對する町當局の態度は何れは小名濱町に來るものだ、片濱にせよ、湯本廻りにせよよろしいと高をくつた其半面に商港とは不可分關係にある鐵道を等閑にした矛盾が今日覿面に判然りと其姿現はして來た事を思ひ當ると思ふ此の癌腫が今日化膿したと云ふのであつて之を切開して見ても矢張り死線を彷徨するを免れ得ないのである、然らばどうすれは之の癌腫を除去し得るかと言へば、內務、大藏の兩省に向つて門戸を叩くに更に一層の猛烈なる誠意をこめた運動の必要がある、又それより外に他に道がない、只之れを命なり天なりとして拋擲するは決して本問題を解決するの道でない事を此際殊に町當局に向つて苦言を呈するものである（完）

磐炭の火事は焚火の不始末
損害は二萬餘圓

昨報磐城炭礦綴坑の火災事件は十四日平署から本田司法主任が主張調査の結果坑內作業を了へた電工遠藤榮之助君（一七）ほか三名が電工詰所のストーブに木屑を焚いたところ折柄の強風に煽られ詰所裏の枯葉に飛火し更に乾燥室に燃移つたものと判明、損害は建物二千八百圓機械類二萬圓であるが保險に二萬二千八百三十六圓契約してあつた

平婦人會
二十三日總會

平婦人會では二十三日第十二回總集會（場所未定）を開催することになつたがこれが打合せのため十八日午後一時から第一校で役員會を開く

前線から勇士の寄附

高久村神谷作出身大谷藤太郎歩兵一等兵は目下中支戰線で活躍中だがこの程村の國防婦人會に五圓小學校に十圓合計十五圓を戰地から送り關係者を感激せしめてゐる

平市人事

◎出生 △仲間町七一目下東京府北多摩郡武藏野町吉祥寺二、一六二內田倉之助氏長女久美子さん

縣道の改修陳情
大型トラックの往來激しく
道路は穴だらけ

常磐炭田地方はすばらしい好調で殷賑を極め採炭增加の一途を辿りこれが搬出のため同地方の道路は織るが如くトラックが往來してゐるが更に冬になると會津地方から各商業者が續々平地方に出稼ぎし交通量が現在以上に增加するので道路の被害も激增するは必然だと同地方民は十四日赤津縣議と共に道路改修の陳情をした、即ち

交通量增加と共にガソリン不足から積載量が極端に增し規定量の二倍以上が普通で更に速度も無理があるため舗裝不完全の道路は見る〳〵これ事故の原因にもなるとの理由であるが

縣では道路は縣道だが最も利用するのは炭坑であるから相當工費を負擔せぬ限り時節柄實現困難と見てゐる

交附金で
國債を購入

泉村納税組合では今十五日午前九時から組合長會を開き本年度の減税額交付金二千百六十圓の使途に關し協議したが全額で國債を購入することに決定した

植田署の武道大會

武德會植田分會では十二月三日武道大會を開催することになり目下準備を進めてゐるがその種目は左の如く今年は歸還勇士が多數參加する筈で盛會を豫想される

△柔道△劍道△柔劍術△弓道

感心なカネさん
植田署表彰方上申

勿來町大日本炭礦運搬婦大山カネさん（四八）は夫が病床にあるばかりか幼兒二人もあるのに關係者の出征にあたつては三里の道も遠しとせず見送り一回もかゝした事なく殊に過般の防空訓練に際しては目覺しい活躍振りを示し關係者から賞讃されてゐたが植田署では表彰することになりこの程上申した

常習博徒の公判　既報防空訓練の眞中花札賭博を開張平署に檢擧された小名濱町中坪土工小野一（二九）は十四日送檢されたが取調べの結果直ちに常習賭博で起訴され十八日當間判事係り富澤檢事立會で公判開廷されることになつた

飲食店女將
猫イラズで自殺

好間村中好間飲食店女將青山スミエさん（三〇）は十三日午前十時頃猫イラズを嚥下自殺をはかり十四日午前五時遂に死亡した同女は本年三月夫に死に別れ〝そば屋〟を開業したが二人の子供を抱へ持病の癪が昂じたので行末を悲觀したものである

栗田孃榮進

[illegible]取締平支所の栗田いしさんはこの程統計主事補に榮進、統計課勤務を命ぜられた

キネマ

◇平館—待望の名篇日活超特作嵐寛壽郎、尾上菊太郎特別出演河部五郎、原健作、香川良介、志村喬『鞍馬天狗復讐篇』多摩川超特作片山明彦、風見章子、星ひかる、上代勇吉、瀧花久子主演『姉さんのお嫁入り』エムパイヤ超大作ハンス・フエーヤー他『盜賊交響樂』外ニュース

ラヂオ

今晩の部

▼後六、〇〇 子供の時間 傳說童話（奉天より）
▼後六、二五 講演「歐洲諸小國存在の歷史的意義」文學博士村川堅固
▼後七、三〇 國民歌謠◎前線將士に送る夕◎
▼後七、四〇 講演「銃後を語る」赤星陸治
▼後八、〇〇 落語「粗忽の使者」春風亭柳枝
▼後八、二〇 歌謠曲渡邊はま子、徳山璉、指揮高階哲夫一、故鄕の母 二、號外屋 三、戰場花づくしほか
▼後八、四三 漫才銃後風景、秋山右樂、秋山左樂
▼後九、〇三 浪花節「犀川苦心仇討」壽々木越造

明日の部

▼前九、四五 幼兒の時間
▼前一〇、〇〇 衞生メモ
▼前一〇、二〇 結核豫防講座、工場と結核醫學博士北峻義等
▼後〇、〇五 ハーモニカ獨奏と合奏
▼後二、〇〇 小學生の時間「高等科」全國高等小學校珠算競技大會東京市敎育局長皆川治廣
▼後三、〇〇 婦人の時間「物のやりくり」永岡めゆき
▼後五、三〇 中等學生の時間座談會遠洋航海より歸りて進德丸船長伊藤辰雄外
▼後六、〇〇 子供の時間
▼後六、二五 講演「食糧確保と小麥の增産」農林省東北小麥試驗所長柿崎洋一
▼後七、三〇 國民歌謠、出征兵士を送る歌指揮內田榮一
▼後八、〇〇 尺八吉野鈴慕納富壽童
▼後八、一〇 ラヂオ風景「太陽は燦たり」大島萬世作加藤精一ほか
▼後八、四〇 時局談話座談會「太平洋の現在と將來を語る」司會有吉忠一、海軍少將武富邦茂、鶴見祐輔ほか

かぜ せき 共通散「アコー」

本品感冒、頭痛、解熱又は流行性感冒肺炎、喘息、急性、慢性急管支炎に効ける乾咳性の劇甚なる咳嗽發作に對し又子供には小兒に於ける氣管支かたる、性肺炎、肺炎、肋膜炎、咽喉かたる、百日咳等の鎭咳痛解熱劑として効あり特に子供達の爲めに小兒用があります。
正價 三十錢、五十錢、一圓
平市古鍛冶町一〇（縣社石段下）
製劑發賣元 阿康藥局
責任者藥劑師 明治藥學士 阿部康雄
電話四四番 振替東京三〇〇六五番

◇食慾の秋！
フクジケンの
一口カツを
召し上がれ
（出前迅速）
電話二八番 平市田町

かまぼこ [illegible] [illegible] 製造
お惣菜用、さつま揚、吉原揚……
平市二丁目 電話一四一番
◎配達員至急入用委細面談

病室增築、手術室完備
醫學博士
產科 婦人科 五十嵐雄二
平市新川町 電話三六九番

戰國間諜傳

大井沢龍 作　山科一郎 画

第百十八回

西の丸（四）

[illegible]から江戸の西の丸にうつされた千姫は大阪以來の[illegible]と血の滲み出るやうな[illegible]とがつきまとつて、彼女の心を[illegible]なくかき亂してゐた。一そう死んでしまひたい。自分一人生きてゐるのがいやになつてゐた。それすら身まゝにならぬ[illegible]でない。自分の身であつて自分の身でない。自分の力のないこと。あれやこれやと[illegible]と、まだうら若い[illegible]の心は、何をするにも興味がなくなり、この[illegible]は[illegible]にもつと、とちともつたきゝ[illegible]の日が多かつた。大御所家康は、[illegible]から本丸へ入[illegible]すると、[illegible]から、西の丸へ來て、[illegible]代[illegible]

[illegible]しめ申しましたところ、その時に[illegible]ぬとの仰せ、[illegible]そのまゝに打ち過ぎてござり[illegible]

「むゝそれは困つたことぢや、[illegible]の方はどう申やつた」

「ようまゐることもあり[illegible]」

[illegible]のもと、[illegible]を[illegible]いて[illegible]をよせ[illegible]は一入[illegible]くなるのであつた。

「[illegible]するにそれは[illegible]」

[illegible]見えるのう[illegible]

「[illegible]」

「[illegible]の心に[illegible]あつてそれを[illegible]ひつめての[illegible]であらう。刑部、[illegible]してくれい」

[illegible]刑部が[illegible]ない。あれほどの大きな[illegible]

[illegible]の御さ、[illegible]の三代[illegible]に[illegible]ひその[illegible]へ千姫をも呼んだのであるが、千姫はなぜか[illegible]だと云ふことで[illegible]の[illegible]をもつて[illegible]への[illegible]して[illegible]口よりではさしてひどい[illegible]とはうけとれぬのに[illegible]んだのかと[illegible]つた[illegible]は大[illegible]以來千姫の[illegible]をはなれず[illegible]を[illegible]つてゐる刑部[illegible]の二人を呼び寄せ江戸へ來てからの[illegible]の[illegible]子を[illegible]ねた。

「[illegible]刑部、[illegible]は[illegible]やそうな[illegible]いたしたことか」

[illegible]ばつたお[illegible]の口上が[illegible]むと、[illegible]は[illegible]に[illegible]つて[illegible]ぐと[illegible]した。

「[illegible]にござりまする。」とたたへ[illegible]されてより以來、[illegible]にすぐれさせ[illegible]はず、ひねもす[illegible]の[illegible]に[illegible]しますや、それはと[illegible]して[illegible]にもおこもり[illegible]ほどの[illegible]とか[illegible]受けいたせませぬ」

「[illegible]に[illegible]せてやつたか」

「はいお附の[illegible]一同お[illegible]し申上げ[illegible]と申し[illegible]しの上[illegible]かれましたる[illegible]を[illegible]はせたく、[illegible]と……」

[illegible]になるのはあたりまへ、それなら[illegible]しく[illegible]して[illegible]ねてゐる[illegible]の[illegible]が知れぬと[illegible]ふが、[illegible]はれねばならぬ[illegible]

「さ、その[illegible]は……」

とさすがに口に出して言ふことを[illegible]した。

「[illegible]は[illegible]、[illegible]」

「[illegible]なれば[illegible]りもなく申上げまする。[illegible]れながら[illegible]への、[illegible]の[illegible]して[illegible]ります」

「なに[illegible]への[illegible]と[illegible]へた」

そこで[illegible]の[illegible]は、[illegible]を一[illegible]を[illegible]けると[illegible]をしてお[illegible]ら、[illegible]大[illegible]に[illegible]のことをのべ

「これはそも[illegible]なる[illegible]すことか[illegible]かなる[illegible]の[illegible]としては[illegible]しはかりきるらし[illegible]のことか[illegible]ませぬが、」

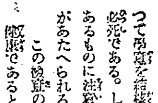
あきりと[illegible]を[illegible]付打ち[illegible]

小ばなし

○嗚呼、代用品時代新鰹節、時代の寵兒として現れた「さばのサーシン」ぜひ、御試食下さい！」

學童と結核

山本杉



この頃、都下の各小學校でマントー反應の一齊檢査にあはせてレントゲン檢査、赤血球沈降速度の測定等を行ひ、學童の結核感染の狀態をしらべ積極的豫防策を講じ、可及的早期診斷によつて學童を結核から守らうと必死である。しかして必要のあるものに治療、保護、療養があたへられるわけであるが、この檢査の結果、今まで健康であると思つてゐた子供が既に病的な所見をもつてゐたり、脚にかぜを引きやすいとか、體質で發育がわるいと思つた子供がすでにりつぱな結核兒童であつたりして昨日まで新聞雜誌にみる結核患者も他人事であつたほど不用意なお母さんたちにかなり大きな衝撃をあたへること、思ふ。

事實としてこのやうな不幸に直面することは、いひやうのない大きな悲しみであらうが之を知り得て適當な處置を取り得ることは不知、不識なるあやまちにくらべて不幸中の幸である。

かゝる子供たちにとつて母親の膝こそ安住の地であることを思ひ、病兒をあくまでもやさしくいたはりながら、いたづらに悲嘆したり怒つたりすることなく必ずなほるといふ信念のもとに嚴格な療養生活につかせなければならないのである。

この世をあげての大仕事は、學校當局と家庭との十分な連絡と協力によつて初めて成果をあげられるのであるが、それには母親の冷靜な愛情と心構へが用意されてゐなければならないことを切に思ふ。

健康すぐれぬ歸還兵の苦しい暮しは救濟

「當局は申込を待つてゐます」

決して悲觀の必要なし

「[illegible]として歸還、職業に復したが健康恢復不十分なために仕事が過重であり、更にマラリヤ再發のため缺勤がちで出征前の俸給も減はり困つてゐる、仕事が充分できるまで何とか救濟していただけぬかといふ意味の訴へがよくありますがそれについて詳細のお話を厚生省軍事保護院援護局扶助課水野理事官にうかがひました

「あの御家庭は當然、こちらでやつてゐる援護事業によつてお助けすることができるのです、まづ御主人の健康回復が仕事の能率に影響してゐるのですがマラリヤの再發については厚生省からちやんと、マラリヤ再發治療に關する規則が發布されてゐますからそれによつて何んの心配なく治療してもらふことができるのです、それによれば、歸還兵で除隊後かかつたマラリヤが再發したときは陸軍病院へ申出でたら入院なり、治療の道が講ぜられもし病院から遠い所に勤めてゐたりして不便な場合は、民間醫師に委託して治療されることもあります、もちろん無料です、そこでマラリヤが再發した場合はもとよりの[illegible]その他傷病持續で申し出ればよいのです

次に生活費の問題ですが、これは歸還兵の生活扶助費としてこちらには七百萬圓の豫算があります、まづ生業資金です、これは出征前大工さんだつた人が、一死奉公の決心から大工道具を賣り拂つて戰地に向つた場合、歸還後、早速生活にも困る、また新たに就職するのに、支度料、旅費もない場合などに補助したり、小商工業者が商賣を始める資金として五百圓以內の金額を年三分、十五ヶ年賦で貸したりいろ〳〵やつてゐますが、もつとせまい範圍の生活費扶助は、一般軍事扶助とは別に、歸還兵の家庭のみをめざし、それ〴〵の狀況に應じ、六大都市では一ヶ月七十圓以內、町村では五十圓以內の生活補助を約三ヶ月間つづけることができます、もつとも、事情によつては月額最高百圓、期間も三ヶ月以上に及ぶこともありますがいつた。こちらの趣旨は歸還兵をなるべく早く適當な職業につかしめ獨立生計を立てるやうにはからひたいといふので、これら生活扶助を申し出るのも歸還後五十日以內といふ制限があります、要するに贅澤な生活は別として一家が暮して行けるだけの保障は十分あるわけですから、決して心配したり悲觀することはありません、またご[illegible]がよく分つてゐないらしいのはざんねんです、すべて、こんな相談は區役所、町村役場にある職業紹介相談所で扱つてゐますから、どしどし申し出てください」

ガラス壜のかはかし方

ガラスビンや深い金屬製容器をお洗ひになつた際、これを乾かすのに直にふたをとつて數時間下向きにし滴がたれなくなるとそのまゝおしまひになつたりすぐにものをお入れになる方々をよく見うけますがこれでは充分にかわいてをりません日向にほせば蒸發作用は行はれますが、口が下になつてゐるため容器よりかるい水蒸氣の逃げ口がなくやはり飽和狀態になつて水分が容器の內部に一ぱい付着してをり、容器が冷えればまたもとの滴となつて容器に濕氣をあたへます。そこでそれらの器具を完全にかわかすには、一度下むきにてしづくが切れたら今度はさらに上むきにして特に日向にとりだし、のこつた水分を十分蒸發させねばなりません。

これから難儀なおムツの洗濯

消毒を兼ねて上手にするには

おむつの洗濯　これは赤ちやんのゐる家庭では、一つの大きな母親の仕事です、さて、このおむつはどうしたら最も理想的に洗濯乃至消毒と云ふものができるでせうか

◎第一の洗ひ方

水でよく下あらひをしてから粉石鹸をよくとかした中でつかみあらひを、板もみあらひをします、ス・フなどもんであらへないものはハケあらひを致し、水をきるのにはねじらずに壓してしぼり、陰ぼしまきしぼりを行ひ、色ついたものはこのとき漂白を施します

◎第二のあらひ方

まづ下あらひをなし、石鹸と曹達液は三分の一の過硼酸曹達を混合し、微溫湯にてよくとかした中にしばらくひたしてあらひます、かうすれば消毒と脫臭が同時にできるのです

さてかうしてあらひましたら、次にその消毒にとりかゝります、このためにはクレゾール溶液（[illegible]分ほどの水におよそ茶一杯位）にひたしてつかみあらひをし、後でよく水すゝぎをして乾燥させるのです、このほかの消毒法ではむしあらひが擧げられますがこれは綿木綿のやうなものでなければいけません

元來おむつは尿だけだからといつて水あらいだけですまさぬ方が安全です、必ず石鹸あらひをしたいものです、よごれの取れきれぬものやゆすぎのたりない物を使用しますと嬰兒のやわらかい肌を刺戟していわゆるタダレなどを引きおこす原因となるからです

俳聖名句集

…行燈を闇に置いてきぬたかな　一茶

…留主の間に荒れたる神の落葉哉　芭蕉

…人に似よと老の作れる案山子哉　蕪村

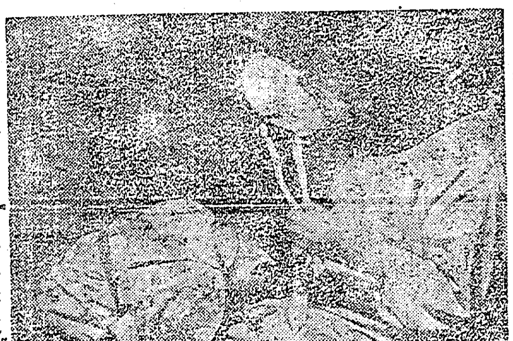
…遠山が目玉にうつるとんぼ哉　一茶

…[illegible]も知つて踊りけり　一茶

秋空と子供達から正しく導け

母こそ若き芽の[illegible]者

變りやすいのは秋の空で、朝天氣がよかつたのに午後になつてにはかに雨がふりだすやうなこのごろの天候ですが、雰圍氣に支配されやすい小さな子供の氣もちがかうした天候に影響され、或は[illegible]



になつてそはそはし出したり、或は明るい朗かな表情になつたりすることは、子供の教育に注意深いお母さんのよく經驗されることゝ思ひます。幼稚園へ行つてから急に空が暗くなつて來ただけでも子供たちはそはそはして好きな紙芝居も耳に入らないのが常です、これは子供たちがそのふんい氣から何かわからない危險が身にせまつてくる不安な感じを本能的に感ずるからです、こんな時には愉快な音樂を聞かせて、氣分を轉換させるやうにするとか、或は雨がどうして空から降つてくるかといふお話をしてやつたり、雨が降らなければお百姓がこまることなどを植物の成長と結びつけて話したりするとよいと思ひます。そして雨がやんで明るくなつてくると、子供達は生きかへつたやうに明るい朗かな表情で喚聲をあげます。このやうに子供たちは驚くほど雰圍氣に[illegible]ですから家庭における雰圍氣は、直ちに子供たちの性格にまで影響して來ます。親たちが不和な場合には、口でいひ爭ふところを子供たちに聞かせなくともそれを敏感に感じて、その暗い雰圍氣を支配するのは、その家の主婦によるものですから私たちが人の家を訪問したとき玄關で主婦にちよつと會つただけでもその家の雰圍氣を直感することができます。まして感情に本能的に敏感な子供はお母さんの感情が言葉に現はれなくとも、常に鋭く感じてゐるものですから、お母さんが神經質な場合は子供は必ずといつてもよい位に神經質になつてゐるものです。從て子供を見ればお母さんの性格が想像できます明るいのびのびしてゐる子供のお母さんは明るく朗らかな性格であり、人の家や幼稚園へ行つたときそはそはと敏感な子供は神經質なものです。人中へ出たときに不安がつたり、雨がふつてくると泣きだしたりする子供がありますが、かういふ子供は一人ッ子や或は自分の家だけの大人ばかりの世界で、オモチヤ相手に遊んでゐるやうな社交性のない子供や「うちの子どもはよその子どもとはあそばせないやうにしてをりますから……」などとお母さんが自慢さうに話すおかあさんのこどもに多いものです。やはり適當な年頃になつたら、適當なお友だちをもたせるやうにし、おかあさんの適當な監督のもとにそれもあまり干渉せず、こどもたちだけの社交的世界に遊ばせておくことが必要です。いつも大人ばかりの中にゐると、こどもはおませになつていかにもえらさうなことを知つてゐることは確かですがそんなことは神經の平衡になればどうでもおぼえることですし、言葉だけがおませになつても、他のもつと大切な方面の發達が阻止されてゐることもあるのです。こどもがお友だち同士で喧嘩した場合は、親で叱つたりせずに、正しい理屈を教へて惡いぞ、訓練しなければなりません。ふん圍氣に敏感でありかつ、環境に支配されることの多いこどもの教育には、よくよくおかあさんの與へる影響の大きいことを考へて正しく導くやうにしなければならないと思ひます。

時局小說

驀進

（新興映畫化）

士別三樹

北野傳画

第九回

街（四）

一兵は靴音をカツと響をたてるところであつた。要三と朋子が肩を並べて歩いてゐる姿が見えてゐるではないか。

「ね、あの女のひと何處で見たのか知ら兄さん[illegible]知らずだわね、ちよつと綺麗なひとぢやない？」

（病人にしてる、それにあの女もあの女、病人を置きつ放しにしていゝ氣になつて男と歩いてゐるなんて）

一兵は、由紀子の言葉も耳に入らぬやうに、唇を噛んで、ヂツと向ふ側の二人をみつめ續けた、しばらく沈默が流れたが、やがて由紀子は、何氣ない風に

「ね、中野さん、今年の夏はわたし、伊豆の[illegible]で暮さうかと思つてゐますの、伊東邊りで――」

彼女は、さう云つて、チラと一兵の顏を眺めた。けれども彼女は全然別のことを考へてゐたのである。

一兵の先刻からの異常な態度にそれとなく感づいてゐたのであつたが、おぼろ氣ながら原因が判つたやうな氣がしてきた。

（彼はあの女とのことで兄と氣まづくなつてゐるのかも知れないわ）

若しさうだと、今はなるべく知らん顏でゐる方がいゝと思つた。それで殊と別な話をしかけたのであつた。

二人の姿は、もう人混みの中に見えなくなつてゐたので、由紀子が話しかけてきたのを機に一兵は彼女にまた視線を戻した。

「[illegible]ですか？伊豆方面も惡くないでせう」

「惡くないでせうつて、氣がないナイ返事ね。あなたがお嫌なら止めるわ」

「これは驚きましたね。それではまるで僕が行くやうなのぢやありませんか」

「さうよ、あなたもいらつしやるのよ、今年もお兄にお願ひしてあなたのお休みを、[illegible]わ」

一兵は、[illegible]つた[illegible]たので、只苦笑してゐた。

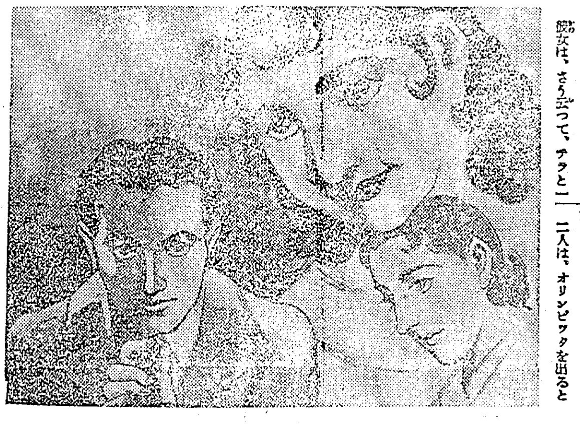
彼女の嫉妬の對象は、一兵も前から知つてゐた。この數日前迄は時に彼女の家を避ける様であつたが、あの自動車事故で、朋子と知り合になつてからは、由紀子の存在は煩さうるさいものになつてきた。

だが、翡玉のやうな朋子を知つて、明るい希望を抱いたと思つたのも瞬間、意外な敵の出現は、彼の希望を少しずゝ奪ひ始めてゐた。要三の甘い言葉と、その金力の前には、餘りにも非力な女性の心を一兵は見てゐたからである。

つゝましやかな朋子が、要三に寄り添ふやうにして歩いてゐた先刻の姿態が浮んできたのを、振ひのけるやうに、彼はカチリとスプーンを置いて

「出ませうか」と云つて立上がつた。

二人は、オリンピツクを出ると新宿の方へ歩いて行つた。



柳の若葉が、明るい灯に鮮かな色で、初夏を想はせてゐる舗道を朗々な心で歩いて行つた。

若しかしたら會ふかも知れない一兵は、さう思つて歩きながらキヨロ〳〵と落ちつきがなく歩いてゐる由紀子はそれを察してゐるので兄達に會へばいゝと、同じやうに左右を見ながら歩いてゐる。

そんな落付かない變な氣持で、ブラ〳〵歩いてゐる中に、いつの間にかもう新宿驛まで來てしまつてゐた。

二人は無言のまゝ、右へ折れて驛の方へ歩いて行つた。

驛の大時計は、もう十一時を指してゐた。

一兵は、由紀子を送つたら、[illegible]で病院へ行つて見やうと決心した。朋子に一應挨拶して置かなければ、どんな不幸を招くかも知れない、然し、彼女が若し要三に、好意があるとしたら――それならそれで仕方がない、只自分は一應警告すれば、それでいゝ、さう思ひはしたものゝ、[illegible]

「おや[illegible]」

[illegible]

專門
花柳病科
婦人科
產科
▼入院隨意
井坂醫院
平市田町　電話一五九番
◎見習看護婦募集

おそば!!!は
電話四番やぶそばへ
天ぷらそば　おかめ　玉子とぢ
月見　南ばん　五目
親子南ばん　釜揚げ　あんかけ
其他各種御座います。
何卒御試食の程御願申上げます。
平市田町

高久病院
院長　醫學士　高久忠
副院長　新潟醫學士　赤羽清
藥局長　藥劑師　佐竹菊雄
內科小兒科　外科花柳病科　耳鼻咽喉科
平市田町　電話五一三番
◎看護婦至急募集

これは便利！
▼手を荒らさず
▼絹、毛織物、木綿、スフ生地を傷めず
▼つけておくだけで洗へるおちのよい
(美)マルミ粉末石鹸
製造元　平市材木町十一番地　電話（呼）四〇八番

外科一般　レントゲン科
內臟外科　泌尿器科
北川外科
平市新川町二七
醫學博士　北川芳夫
（電話四六四番）
◎晝夜診療・入院臨時・血液檢査每日

◇和文歐文タイプライター
◇最新事務用品類
◇文房具一式
◇製圖並に測量用品
◇謄寫版並に附屬品
平市田町銀座街
東邦タイプライター代理店
東邦タイピスト養成所
藤森
電話三〇七番
振替仙臺五一〇番
（藤森事務用器商會）

花柳病科外科
木村外科醫院
平市南町（警察署通り角）電話三〇九番

◎女車掌（三名至急募集）
1、未經驗者ニ限ル
2、委細面談
3、優遇ス
三井タクシー
平市二丁目
電六八五番

吉田眼科醫院
平市紺屋町
電話八六番

提灯
國旗
平四
スガノヤ

鈴木醫院
平市田町
電話五八番

新鰹節と"美味"しいうにの罐詰
魚問屋
志賀盛榮商店
平市四丁目（電話二一三番）
日本生命平代理店

外科內臟外科
X光線科
院長　安齋徹
―新設―
▽入院隨意△
平市田町
安齋醫院
電話四五七番

鐵道指定旅館
割烹
小瀧
小名濱電話一〇三番

齒科口腔外科
レントゲン科
院長　東京齒科醫學士　原精一
電話三一番
平市土橋通
原齒科醫院

磐城セメント會社特約店
釜屋商店
磐城平市五丁目
電話九・九九
□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷は(久)の生命なり

內科
外科
一般
金成醫院
金成忠義
平市鍛冶町
電話三五八番